

普及活動情勢報告（令和6年2月分）

中央西農業振興センター高知農業改良普及所

新規就農の確保・育成 ～春野地域における指導農業士との意見交換会～



意見交換会の様子

1月27日、JA高知県春野営農経済センターで春野地域における指導農業士との意見交換会を開催し、指導農業士7名、関係機関12名が参加しました。

普及所からは、後継者就農促進事業の実施状況や県内及び春野地域の新規就農者の動向、指導農業士の活動を紹介しました。

指導農業士からは「求める就農者の対象を絞ったアピールをすべき」「設備投資など就農初期のハードルが高いのでサポートが必要」など、新規就農者を確保していくための意見が出されました。

普及所は、今回の意見を参考に指導農業士や関係機関と連携して新規就農者の受入を推進していきます。

次年度とその先の収量安定化を目指して ～ユズせん定現地検討会～



現地検討会の様子

2月10、18日に、高知市土佐山柚子生産組合及び鏡地区果樹部会のユズせん定現地検討会が開催されました。

検討会では、普及所から令和7年度の果実の確保と8年度に着果させる枝の確保が重要であることを説明し、高知市ゆず専門営農指導員とともに、若木で主枝が多い場合の主枝の決定方法や幹腐病の主枝の更新方法、樹高が高くなってしまった老木の強せん定などを実際に行いました。

生産者からは「枝の確保の重要性がわかった」「枝の更新方法がわかった」などの意見があり、各々の園でのせん定をイメージしてもらうことができました。

普及所は今後も高知市北部のユズ産地の活動を支援していきます。

春野トマト部会現地検討会 ～甘く実ったかな？～



現地検討会の様子

2月18日、高知市春野町の高糖度トマト生産者ほ場にて、生産者5名と関係機関が集まり、現地検討会を行いました。

普及所からは今園芸年度のトマト部会での取組である生育・環境データを用いたハウス内環境の改善について報告しました。現在の樹姿の善し悪しを判断するため、温湿度管理や、かん水管理、台木や土質など様々な視点から活発的な議論が行われました。

普及所は今後もデータ駆動型農業の実践を支援し、収量向上に向けた取組を推進します。

輸出も見据えた販路拡大に向けて ～イチゴ生産者GLOBALG.A.P.認証審査～



審査の様子

2月18、19日に、高知市介良のイチゴ生産者において、GLOBALG.A.P.認証審査が行われました。普及所は、認証取得に向けて、ほ場や取扱い施設における工程のリスク評価及び手順化、また帳票類の作成を支援しました。

審査を終えた生産者からは「今はまだ完璧ではないが、改善を繰り返し、より良い農場になっていくよう取組を継続していく。審査費用は決して安いものではないが、何倍もの利益に繋がるように商談に利用していきたい。」と、販路拡大に向けての意欲がうかがえました。

普及所は今後も生産者のGAPの取組を支援していきます。